いかり 康雄 レポート

まちづくり 街を創る職人

これでいいのか、新市庁舎用地選定

―川口の将来発展の芽を摘む選択―

市庁舎の建て替えについては、四半世紀にわたりSKIPシティが適当とされてきました。平成25年8月、SKIPシティと現市庁舎敷地の比較をしてきた「川口市庁舎建設審議会」も、SKIPシティがふさわしいと答申しました。

これに反し、市議会は、現市庁舎敷地が適地と主張。岡村市長（当時）は、平成25年12月、現市庁舎敷地とすることを議会に提案、市議会はこれに同意し、現在の市庁舎敷地になってしまいました。しかし、岡村市長は、早期の建設をするために「身を切られる思い」で決断したと述べており、市長もまたSKIPシティでが優位と考えていたことは明らかです。

１．あまりに唐突な方針転換

現在の市庁舎は耐震性が不足しています。災害対策本部を設置する拠点としては不適当であり、建て替えが必要です。

新しい場所は、これまで25年にわたる検討の中で、SKIPシティ敷地が良いとされてきました。最近では、現庁舎とSKIPシティについて６項目で比較した「川口市庁舎建設審議会」も、平成25年8月、SKIPシティが優位と答申しました。ところが、昨年末、突然、現市庁舎・市民会館敷地に決定されました。

市庁舎建設の候補地、SKIPシティC街区

20,290 ㎡。現市庁舎の14,208 ㎡に比べ余裕があります。更地なので、建設の手順が簡素で安価に建設できます。

２．市民不在の決定過程

市庁舎は、市の顔です。様々な手続きのために年間46万人の市民が訪れます。約1,300名の職員がもたらす経済効果や周辺整備事業は、今後の都市整備に大きな影響を与えます。川口市の「50年・100年後のまちのありかた」を決める重要な決断なのです。

新庁舎建設地を選定する際には、市民に情報を提供し、多くの市民の参加を経る手続きが不可欠です。

しかし、昨年８月にSKIPシティが候補地として適切とした答申を否定し、現市庁舎敷地と決定する過程には、市民の参加はまったくありませんでした。川口の将来のまちのあり方を決める市庁舎建設地の選定としては極めて不適切といわざるを得ません。

自治体の憲法といわれる「川口市自治基本条例」には、「市政に関する重要な事項について、説明会、懇談会、パブリック・コメント手続、アンケート調査その他の効果的な方法により、市民の意思の把握に努めるとともに、当該市民の意思を行政運営に反映させる」（第19条）とされていることは言うまでもありません。

３．現市庁舎の敷地ではいけない４つの理由

平成24年に、岡村前市長によって設置された「川口市庁舎建設審議会」の答申によれば、多くの面でSKIPシティの方が優れています。

（１）川口の中心はSKIPシティ

かつては、市街地は川口駅・西川口周辺に限られていたため、現在の市庁舎敷地が誰にとっても便利でした。市街地が市域のほぼ全体に拡がった今、SKIPシティが人口の重心点に近くなっています。SKIPシティ敷地に建設する方が、より多くの市民に利便性が高くなります。

川口駅周辺に住む市民には、川口駅前のキュポラには行政センターがあり、新市庁舎がスキップシティに移転しても、利便性は低下しません。

出典：新庁舎建設審議会　第３回資料

地理的中心点及び人口重心点からの距離

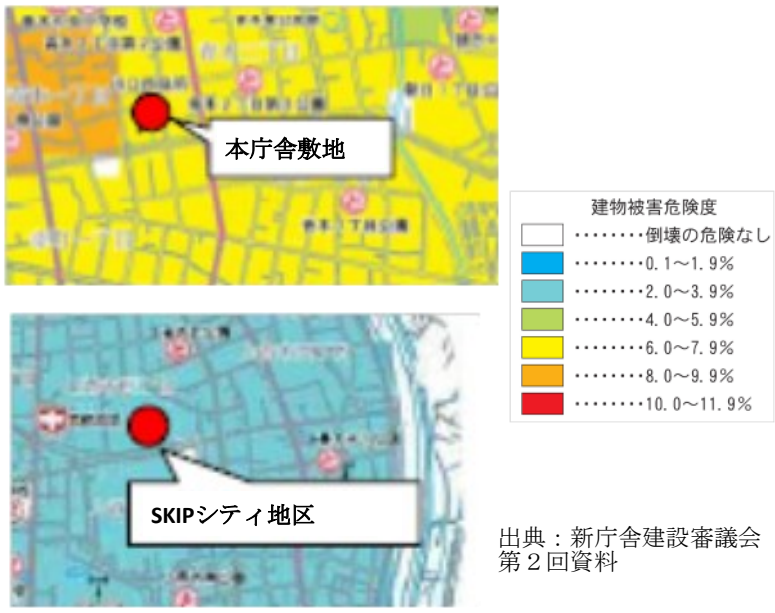
現市庁舎敷地は人口重心点から約2.4kmも離れているのに対し、SKIPシティは約0.6kmしか離ていません。

（２）災害時に役立たない現庁舎敷地

災害時には、市庁舎は防災本部として、危機管理の中枢機能を果たさなければなりません。そのためには、市庁舎が災害の影響の少ないところに建っていなければなりません。

遠くない将来に発生するとされている「東京湾北部地震」（M7.3）の被害想定では、現庁舎周辺の建物被害危険度（建物全壊棟数率）は6.0％～7.9%にもなっています。倒壊した家屋からは火災が発生する可能性があります。このように大きな被害が予想される地域に災害対策本部を置いて、十分な対策がとれるのか危惧されます。これに対して、SKIPシティ周辺では、建物被害危険度は2.0％～3.9%にとどまっています。

災害対策本部では、他の自治体との連携や自衛隊からの支援などを受け入れる必要があります。市内の各避難所との連絡も必要です。そのために、多くの駐車スペースが必要です。現在の市庁舎敷地より、SKIPシティの方が敷地面積に余裕があり、この点でも現庁舎敷地は建て替え地候補としては適していません。



出典：新庁舎建設審議会
第２回資料

建物被害危険度

現市庁舎敷地周辺では、建物被害危険度が6.0～7.9%となっているが、SKIPシティ周辺では2.0～3.9%と低くなっています。

（３）将来の発展の芽を摘む現庁舎敷地

市庁舎では、常時、約1,300名の職員が勤務し、年間46万人の市民が訪問します。SKIPシティに建設すれば、来訪者や職員のために様々交通手段が整備され、新たな都市開発の中心となることが予想されます。

SKIPシティに新庁舎を建設することで、埼玉高速鉄道沿線や以東の地域の発展に大きく寄与することができます。

現在の市庁舎周辺は、すでに開発が一段落した地域であり、ここに新市庁舎を建設しても、大きく発展することは望めません。新たな中心市街地をつくり、川口市の経済を活性化させるまちづくりの視点からも、SKIPシティでの新庁舎建設が正しい選択といいえます。

（４）現市庁舎敷地＝30億円のムダ使いを許すな

コストについては、庁舎建設審議会は、現市庁舎敷地について３つのケースについて試算し、建設費は236～280 億円としています。一方、SKIPシティでは建設費207億円と試算しています。現市庁舎敷地に建設すると、29～73億円もの負担が多くなります。庁舎建設審議会でも「いずれの場合も工事費の比較ではSKIPシティの場合を上回る」と結論付けています。

川口市では、市立高校の統合など、経費がかかる事業が予定されており、その差額は、一般会計予算が約1,300億円の川口市にとって決して小さくはありません。

より大きな費用をかけて、適地ではない現市庁舎敷地に新市庁舎を建設する理由はありません。

概算工事費の比較

	SKIPシティ※	現庁舎敷地	現庁舎敷地のア	現庁舎敷地のイ
工事費（億円）	207	236～280	238	260～262
工期	7年	13年	10年	7.5年
備考	候補地は更地	３つの工期に分けて建設	２つの工期に分けて建設	仮庁舎の建設が必要

出典：新庁舎建設審議会　第１回資料より

※SKIPシティでは、用地取得費として38億円が見込まれていますが、現市庁舎敷地を有効活用することを考えれば、十分に相殺されます。

<関連年表>

	できごと
昭和63年	新庁舎建設に関する検討始まる。
平成7年2月	職員からなる「庁舎・新市民病院建設促進特別委員会」で**「ＮＨＫ跡地等」が有力**とされ、市議会の「庁舎・新市民病院等建設促進特別委員会」に報告。
3月	市議会の「庁舎・新市民病院等建設促進特別委員会」は、「**上青木地区整備構想に位置づけ建設を促進**する」と結論づけた。
9月	市議会に「ＮＨＫ跡地等利用・庁舎問題特別委員会 」を設置。
平成17年2月	埼玉県都市再開発方針で、「都市再開発の方針・SKIP シティ地区北側については、本市の**行政サービス、住民サービスを提供する公共公益施設等のシンボル拠点として、また災害時における防災拠点として整備**」とされる。
平成23 年	職員で構成する「庁舎建設等検討委員会」設置
6月	市議会に「危機管理対策・庁舎整備等特別委員会」を設置。
10月	鳩ヶ谷市合併
平成24年11月	「川口市庁舎建設審議会」設置
平成25年8月	「川口市庁舎建設審議会」答申。「**SKIPシティがスが優れている**」と報告
9月	市議会「危機管理対策・庁舎整備等特別委員会」（委員長立石議員）ＳＫＩＰシティより現在の市庁舎敷地を適地と報告
12月	岡村市長、市議会に現市庁舎敷地案を提示「議案第１４８号 」
12月	川口市議会、同意
12月20日	９連合町会１団体、建設予定地見直しの要望書提出（署名１万筆）
12月25日	岡村市長逝去
平成26年2 月	市長選挙　奥ノ木信夫市長当選
4月	「川口市新庁舎建設基本構想・基本計画審議会」設置。新庁舎の基本構想・基本計画の策定について調査審議。
6月17日	矢作市議　新市庁舎建設地問題について質問中に止められ、懲罰を受ける。

４. 提案

新市庁舎建設の候補地は、四半世紀にわたる検討の中で、一貫してSKIPシティでした。それが覆された過程には、市民参加の手続きが全くありません。利便性、防災、将来の発展可能性のどの視点からも、市民のためになる選択とは言えません。そこで提案します。

提案１　現在の市庁舎跡地への建設を前提とした準備を一時停止すること

提案２　情報をわかりやすく開示し、市民参加の原則の基づき適地を再検討すること

提案３　新市庁舎に機能を集中するのではなく、鳩ヶ谷支所をはじめ、分散させることにより、適正規模の市庁舎とすることによって、建設費用を抑えること。

いかり 康雄

市民が「主役」の まちづくり

明日の
川口のために！

聞かせてください。あなたの声を！

川口をよりよくしていくために、あなたのご意見を聞かせてください。

1　あなたが関心があるのは次のどの分野ですか？

・防災　・コミュニティ　・福祉　・介護　・子育て　・環境　・市政・議会改革　・新庁舎問題

2　新庁舎問題を知っていましたか？

・知っていた　　・知らなかった

3　あなたは投票に行きますか？

・毎回行く　　・ほとんど行く　　・あまり行かない　　・行かない

4　あなたのご意見をご自由にお書きください。

お名前：　　郵便番号：　　ご住所：

電話番号：　　メール：

メールで連絡を受けることを承認いただける場合は、メールアドレスをご記入ください。

電話でご連絡ください。本人が伺います。または、郵送・ファクシミリ（048-437-5585）でご返送ください。

【経　歴】

昭和38年　川口市生まれ（51歳）

昭和51年　川口市立芝南小学校卒業

昭和54年　川口市立芝中学校卒業
（テニス部所属）

昭和57年　埼玉県立浦和高等学校卒業
（柔道部所属）

昭和63年　早稲田大学政治経済学部卒
（地方自治を学ぶ）

昭和62年　民間シンクタンク入社。

平成5～16年　カナダ・アメリカの大学に留学。ヨーク大学環境学研究科（M.E.S.=環境学修士）カナダ政府奨学金を受給。北イリノイ大学政治学研究科（Ph.D＝政治学博士）

平成17年　帰国後、民間シンクタンクに復帰。　環境・まちづくり分野の事業を担当

平成23年4月　川口市市議会議員選挙に挑戦。100票差で涙を飲む。

現在、民間シンクタンクの主任研究員。

環境問題・まちづくりに取り組むNPOなどで幅広く市民活動に取り組んでいる。

元川口市自治基本条例策定委員会委員、元川口市協働推進条例策定委員会委員、元川口市環境審議会委員

いかり　やすお
碇　康雄

討議資料

平成26年（2014年）８月

〒333-0866　埼玉県川口市芝2-8-2

TEL：048-268-2696
FAX：048-437-5585
EMAIL: coms@ikari2010.com